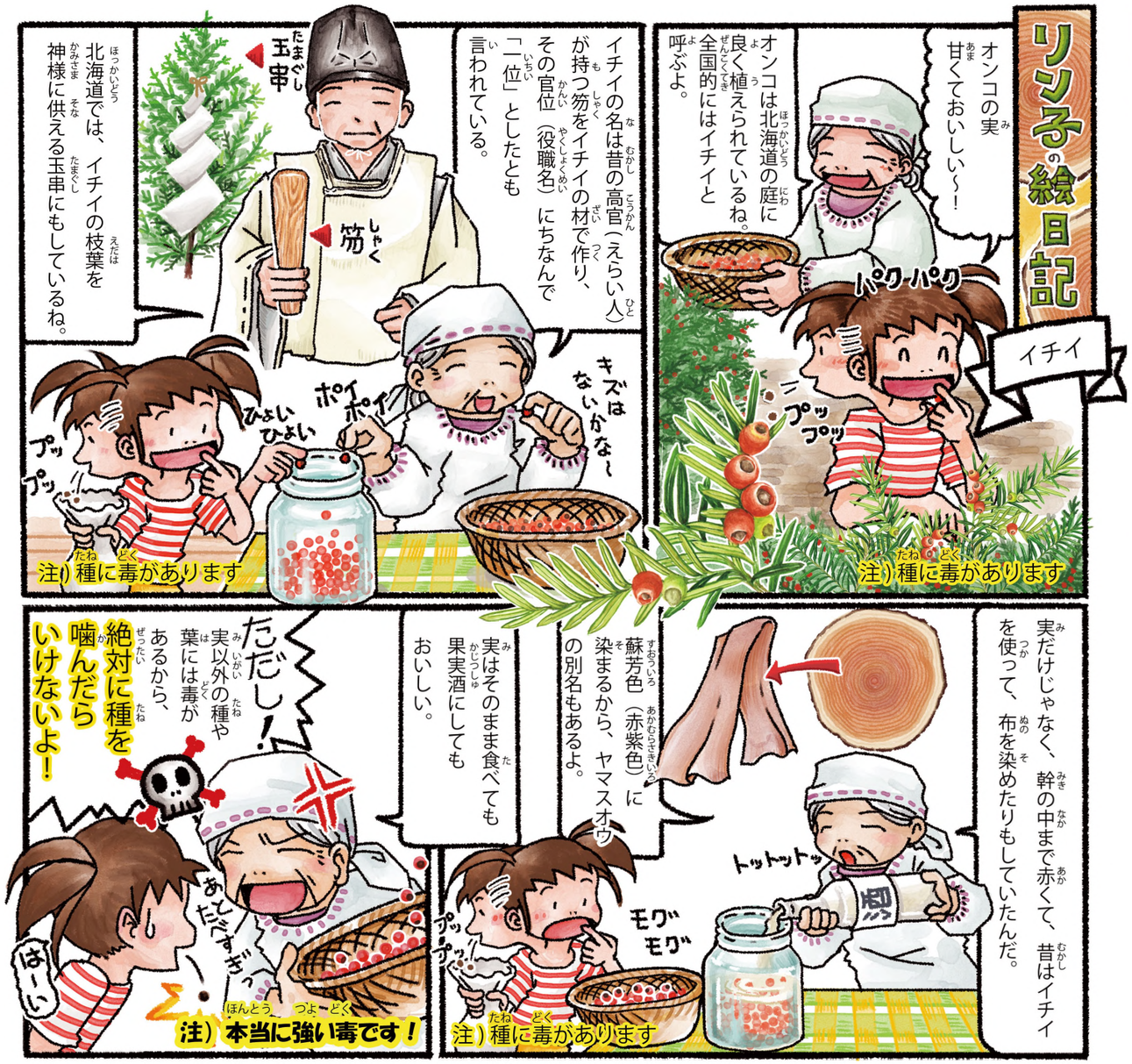
リンゴの絵日記

イチイ



イチイとくらしとのつながり

イチイは成長が遅いため、年輪が詰まり、針葉樹としては硬いです。乾燥や加工が容易で、木肌は緻密で艶と光沢があるため良材とされ、工芸品や器具、彫刻、建築装飾材として利用されます。

また、樹形は端正で整いやすいため、庭木や生垣、盆栽としても親しまれています。

北海道では枝葉を、神社で神前に供える玉串として用います。

イチイの玉串

年輪は密に詰まる

紅褐色の心材と辺材の境界が明瞭

アイヌ民族とイチイ

イチイはアイヌ語で「クネニ（弓になる木）」と呼ばれ、この木で作った太い弓は雨や雪にさらしても狂わないとされました。

また、心材から褐色の染料を採り、アットウシを染めました。

実は食用で、心臓や胸の病気に良いとされました。

四季の観察ポイント

春 雌雄異株だがまれに雌雄同株

雄花の多くは2年生枝につく

雌花

夏 葉はとがるが触っても痛くない

葉は主軸上ではらせん状につくが側枝では捻じれて左右に互生

秋 種子は赤い仮種皮に包まれる

種子は5㎜位有毒

冬

冬芽

樹皮は赤褐色で薄く浅い裂けめが目立つ

実はムクドリ、ツグミ、ヤマガラ等様々な野鳥が食べにくる

円錐型の樹形

実を食べるエゾリス

イチイ科
イチイ属
樹高
10〜15m

イチイは別名オンコとも呼ばれ、北海道では庭木や生垣などでも親しまれている針葉樹です。

天然ではやや暗い森林の中で多く見られ、成長は遅いです。特殊な条件下で純林を作ることもあります。

実の赤い皮の部分（仮樹皮）は甘く、食べることができますが、この部分以外は有毒アルカロイドのタキシンが含まれているので要注意です。